

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 63 号 (H28.11.20)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 早 11 月も下旬ですね。だんだんと年末の慌ただしさが感じられる時期となりました。

ORMZ の活動も平成 28 事業年の締めとなる時期となります。皆様のご支援により、28 事業年もこれまで以上にルアノ地区をはじめ、各地区での医療支援活動や啓発活動、井戸掘削、さらには JICA 基金による「マラリア蚊殺虫剤噴霧活動」を行うことができました (現在進行途中ですが)。改めまして皆様のご支援に感謝申し上げます。

さて今回は、山元香代子先生からの現地活動報告 (主に 10 月の活動状況) と、前回お伝えした、山元先生不在時に巡回診療に同行された大阪大学医学部学生さんからの感想、未掲載お二人分を併せてお伝えします。

会の活動から

・「世界の人びとのための JICA 基金」活用事業に助成金の申請をしておりましたマラリア対策としての「ルアノ地区でのマラリア蚊殺虫剤噴霧活動」、まだ正式に契約を結ぶ運びに至っていませんが、現地の天候の関係 (雨期になる前に噴霧を実施する必要がある) から、契約締結前から実際の噴霧を実施してきました。今回一部、事業の様子をお伝えします。

賛助会費納入のお願い

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は 1 月から 12 月です。早 11 月も過ぎようとしております。賛助会員の方でまだ賛助会費未納の方は、どうぞ賛助会費 (個人一口 5000 円、団体一口 10000 円) のご協力をよろしくお願いいたします。

・入金を確認しました際には、日高からその旨メールを差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付 (賛助会費含む) いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書 (賛助会費も寄附金と同様税控除の対象) をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

・Web 口座をお持ちの方はネットからも振込みができます。詳しくは各銀行等にお尋ねください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

現地からの報告 (山元香代子先生)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本は大分寒くなっていることと思います。

こちらは、昼間は 30 度を超えるくらい暑く、10 分ほどの雨、こちらではシャワーと言いますが、2 度ほど降る という状況です。

断水は続いていて、朝早くしか水がでませんので、早起きして水を貯めています。週末になると朝も水が出ず、困っています。停電は段々長くなってきています。1日平均5-6時間です。計画通りの時間では17時から23時なのですが、昨日は朝の8時から突然の停電でした。

こちらの銀行では、一度に5000ドルまでしかおろすことができません。また口座維持料として毎月15ドル差し引かれます。もちろん全く利息は付きません。できるだけ朝早く銀行に行くのですが、この10日間5回行って3回はドルが全くなり、無駄足になりました。ザンビアでは銀行でお金をおろすのもとても手間がかかります。

10月19日はニャンカンガでの巡回診療でしたが、準医師のムレタさんを迎えに行く途中で、車のファンベルトが切れ、動けなくなりました。迎えの車を呼び、道路沿いの店で新しいファンベルトを購入し交換しました。携帯電話のつながる場所で助かりました。診療は翌日の20日に実施。患者数はふだんの半分の70名、マラリア陽性は65名中3名と少なく、上気道炎、下痢の患者が多くみられました。

21日は、ニャンカンガのヘッドマンやNHC（巡回診療活動を助けてくれる地域の保健衛生委員会）メンバーが集まり、ルサカからEHT＝環境衛生担当技術者が一人加わり、下痢・マラリア予防などについて話してもらいました。その後、トイレ建設、井戸の管理、新たに掘る井戸の場所などについて話し合いました。

26日は、ルアノでの巡回診療。患者数は55名、マラリア陽性は47名中4名と少なく、結膜炎、下痢の患者が多くみられました。ルアノの患者数は本当に減りました。コミュニティヘルスワーカーが頑張ってくれているからだと思います。

28日はルアノのヘッドマンやNHCメンバーが集まり、ルサカからEHTも参加して、ニャンカンガと同様の会合を開きました。6月のマラリア蚊殺虫剤噴霧後、サバニ、トンプエではマラリア患者数は8名のみ（総数67名）と効果があったと考えられ、ルアノ全村で噴霧することになり、その詳細について話し合いました。ルアノの人口は約1700名、275家族とさほど多くはないのですが、新しい村もでき、またトンプエの近隣の村もいっしょに噴霧することになり、とても労力と時間のかかる活動です。みんなで頑張る予定です。

噴霧活動は2台のランクルで回るので、一番心配なのは車の故障です。今2人の運転手が古い方のランクルのプレーキシューやスプリングのラバーブッシュなどを交換しています。その途中でスプリングの一部が折れているのがみつき、その部品を捜しに町に出かけました。

活動は4回に分けて行われます。ルアノに宿泊して実施した方が効率がよいのですが、2村を回れば満タンのディーゼルが無くなり、予備のジェリカンのディーゼルを使わざるを得ません。それ以上の村を回ろうとするとディーゼルが足りません。ルアノから4時間走らないとガソリンスタンドはありませんので、



*21日、ニャンカンガでの会議の様子
患者数はふだんの半分の70名、マラリア陽性は65名中3名と少なく、上気道炎、下痢の患者が多くみられました。



*28日、ルアノでの会議の様子



*満開のジャカラング

活動は4回に分けて行われます。ルアノに宿泊して実施した方が効率がよいのですが、2村を回れば満タンのディーゼルが無くなり、予備のジェリカンのディーゼルを使わざるを得ません。それ以上の村を回ろうとするとディーゼルが足りません。ルアノから4時間走らないとガソリンスタンドはありませんので、

毎回ルサカに帰ることにしました。11月4日から噴霧が始まります。どうか無事に終わるように祈るばかりです。

井戸掘削の場所もきまり、井戸会社 China Ganz の社長さんと交渉し、今回は1基5800ドルで掘ってもらえることになりました。去年は5500ドルだったのですが、ガソリン、ディーゼルが10月15日からそれぞれ40%、33%値上がりしたのでこれ以上は無理でした。

本格的な雨季が始まる前に、噴霧活動、トイレ建設、井戸掘削を終わらせなくてはいけないので、とても忙しく、特に運転手が大変です。何とかみんなで力を合わせてがんばります。

みなさま、お元気でお過ごし下さい。

医学生からの報告（巡回診療に同行して）

8月24日にザンビアの辺地医療を支援する会さまのルアノ地区への巡回診療に同行させていただきました。ザンビアにて最末端の医療を味わえ、たいへん貴重な経験となりました。誠にありがとうございました。

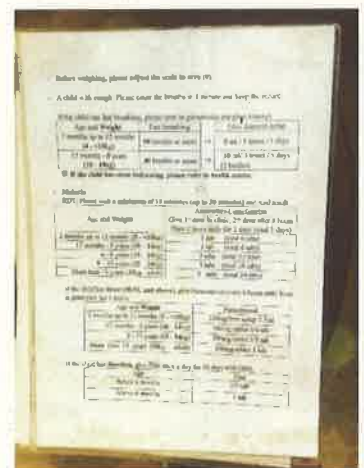
ルアノ地区 — そこは政府から見放された地域であると同いました。首都ルサカから地図の上での距離は遠くないものの、いくつもの山を越えないといけない、また、全く舗装されていない道なき道を進む必要があります。我々チーム阪大4人組は、デンポさんの運転のもと車で片道4時間半をかけて巡回診療先へと向かいました。

熱帯熱マラリア—短期間で重症化や致死の可能性があり—が多い地域だと同いました。私は、ザンビアの辺地医療を支援する会の女性スタッフの横で、村の人たちがマラリアの検査をされていく現場を目撃しました。簡易な検査キットがあることを知りませんでした。検査紙に患者の指先から採取した血を垂らし5分待つだけで診断していました。

1人目の患者として、かわいい少女が検査の小屋に入ってきました。マラリア陽性が出ました。私は非常に驚きとショックを受けました。その後も100人近くの村の患者がやってきて、半数の50人ほどがマラリア陽性という結果でした。マラリアの患者は、ザンビアの辺地医療を支援する会のスタッフから無償でマラリアの薬をもらって帰っていききました。

准医師のムレタさんの診療では、下痢や荷運びで腰を痛めた人、高血圧、敗血症など多種の病気の患者さんが来ていて、的確に診察し完成されたマニュアルに沿って薬を処方していました。病院のない場所でも治療可能なものもたくさんあることを知りました。

帰りに車である村を通り過ぎる際、村の男性が私のいた助手席の窓をたたいてきました。「息子がマラリアなんだ、薬が欲しい」と必死に私に訴えかけていました。スタッフからは、薬をのせた車がもう先に行ってしまった、来週来るから…と言って、立ち去ることになりました。短期間で症状が進むマラリアであれば、この1週間が非常に大きく感じました。しかし、行き来の時間が長く日が暮れたら帰れないこと、また、決まった時間の診療以外にも手を広げてしまうと際限がないことから、やむをえず治療ができないことがあるのだということを突き付けられました。末端の医療の課題であり、限界なのかもしれないと、感じました。



私はザンビアの辺地医療を支援する会さまの巡回診療を通して、医療の先端に目が行きやすい日本の医療から一歩外に出て、末端への医療を推し進めることが世界規模の医療課題に非常に重要なことであると痛感しました。貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

(大阪大学医学部医学科4年 三谷 智樹)

2016年8月24日にORMZの活動に参加させていただき、誠にありがとうございました。

アフリカが初めての私にとって、大変貴重な経験でした。

ORMZの活動を拝見する前に、ザンビアの医療のトップレベルでもある、ザンビア大学の附属病院 University Teaching Hospital にもお邪魔させていただきましたが、ルアノ地区での風景はそれと全く違うものでした。

まず一番驚いたのは道の悪さと交通の不便でした。私たちはボランティアの方のご好意でSUVに乗ってルアノ地区まで行きましたが、当地の人にインタビューをしたところ、なんと14時間をかけて歩いてきた人もいれば、遠くて全く来られない人もいるとお聞きしました。

周囲にヘルスセンターのないルアノ地区では、マラリアもエイズも蔓延している中、医療サービスへのアクセスが一番の問題ではないかと気づきました。国から援助が入ってこない中、自ら仕事を休んで、モバイル診療を月に二回行い、首都ルサカから薬を運んで、診察や投薬をし、住民たちの健康を守ろうとしている、山元先生が率いたORMZの方々をととても尊敬しております。

今までの勉強で先進医療や医療の進歩しか考えていなかった私に、今回の経験はまさに本当の医療の役割を気づかせてくれました。短い時間でしたが、本当にありがとうございました。

(大阪大学医学部医学科4年 金 颯)

首都ルサカ 100周年記念HPより

平成25年7月31日、ルサカ100周年記念式典が開催された時のホームページから写真を掲載します。こんなに変わったのですね。

1955年当時のルサカ商業地区中心街



現在の商業地区中心街



以上

◎どうぞ今後ともご支援のほどよろしく申し上げます